

紫波総合高校同窓会報

第43号

発行 令和七年二月二十七日

岩手県立紫波総合高等学校同窓会事務局



ごあいさつ

同窓会会長 佐々木 順 一 高二十二(昭四十五卒)

会員の皆様におかれましては、日頃から同窓会活動と母校支援に御協力を賜り、心から感謝申し上げます。令和六年度を振り返りますと、特筆すべきは何と言っても「パリ2024オリンピック」自転車競技トラック種目男子ケイリンにおける、本校卒業生の中野慎詞選手(平成29年度卒)の活躍です。この種目としては16年ぶりの決勝進出を果たし、4位入賞という快挙を成し遂げてくれました。不運な接触事故に見舞われながらも前を向いて立ち上がる姿に、応援する我々も胸が熱くなりました。次のロサンゼルスオリンピックに向けて、また着実に力をつけていくと大いに期待しております。

その先輩の姿を追いかけるかのように、母校の後輩たちも大いに活躍いたしました。部活動では、自転車競技部が県高総体トラック総合優勝を果たしたほか、インターハイ、国民スポーツ大会へ出場し、大いに母校の名を高めてくれました。また文化部においても、美術部において、県高総文祭で特賞を受賞し、来年度香川県で行われる全国高等学校総合文化祭への派遣が決定しております。それ以外の部活動やその他の活動においても、本校の生徒のひたむきに取り組む姿が随所に見られ、様々な成果に繋がっていることを、大変喜ばしく頼もしく思っております。

同窓会活動としては、令和六年七月六日に定期総会が開催されました。定期総会には関東支部をはじめ、各支部から多くの参加者がありました。その際、関東支部の太田泰様(第13回生)が作成された絵本「渋沢栄一物語」が紹介されるなど、同窓生の思いの詰まった会となりました。今後より多くの同窓生が集える場となるよう、ぜひお近くの同窓生にもお声がけいただけたら幸いに存じます。

最後に、同窓生の皆様におかれましては、より一層魅力あふれる紫波総合高校へ向けての様々な取組や同窓会活動につきまして、引き続き御支援を賜りますようお願い申し上げます。御挨拶いたします。

自転車競技部インターハイ出場





御挨拶

校長 松田 隆 宏

同窓会員の皆様には、日頃から母校の教育活動に物心両面から御支援と御協力をいただいておりますことに厚く感謝申し上げます。

さて、本校は岩手県立紫波総合高等学校と改称して20年目となり、今年度94周年を迎えました。4月には94名の新生を迎え、全校生徒数242名（1年次94名・2年次86名・3年次62名、男子113名・女子129名）、教職員数は非常勤職員を含み53名でスタートいたしました。本来の定員は400名ですので、約61%の充足率になります。本校に限らず生徒数の減少は、学校の活力にも直接影響を及ぼす要因にもなりますが、生徒たちは校訓「知を求めこころ豊かに たくましく」のもと「地域から信頼され

続ける学校づくり」を目指して、明るく落ち着いた学校生活を送っております。

生徒の活動の様子に目を向けますと、部活動では、自転車競技部が「第76回岩手県高等学校総合体育大会」トラックレース競技の部で総合優勝という素晴らしい結果を残し、「第56回東北高等学校対抗自転車競技」へ進むことができました。さらに、上位大会である「全国高等学校総合体育大会」への出場を果たした選手もおります。また、本校平成29年度卒業生、中野慎詞選手の活躍も忘れてはなりません。「パリ2024オリンピック」自転車競技男子ケイリンで4位入賞という快挙を成し遂げられ、応援する私たちに感動と勇気を与えていただきました。文化部では音楽部、美術部、書道部、演劇部、そして郷土芸能委員会が各種大会等へ出場・出展し、入選・入賞しております。その中で美術部は、「第47回岩手県高等学校総合文化祭美術工芸部門・絵画部門」において特賞を受賞し、来年度の「第49回全国高等学校総合文化祭（かがわ総文祭2025）」への出展が決定しております

ます。他の部活動におきましても、部員数が少なく練習も限られる状況下でありながら、様々な成果を残しております。

各系列の活動でも、産直運営やシクラメン販売、お弁当販売・ワンデイシェフとして1日レストランの運営、各種検定試験への取組、そして地域の施設の方々を招いての交流活動など、様々な取組をしております。さらに、「令和6年度食肉惣菜創作発表会ミートデリカ岩手県大会」で最優秀賞、県知事賞、優秀賞を受賞した生徒もおります。

進路概況につきましては、就職希望者、進学希望者の進路決定も概ね順調に推移しております。進路決定後も自らを高めることが求められる社会ですので、本校での学びを糧に更に成長することを期待しております。

結びに、歴史と伝統ある本校を今後ますます発展させていくために、私たち教職員も一丸となって取り組んでまいりますので、同窓会の皆様からのお力添えと御支援を賜りますようお願い申し上げます、御挨拶といたします。

2024年度事業報告

【令和6年】

- 4月 9日(金) 入学式
- 4月11日(木) 会計監査及び役員選考委員会
- 5月10日(金) 第1回同窓会運営委員会
- 7月 6日(土) 令和6年度同窓会定期総会
盛岡南ショッピングセンター NACS

【令和7年】

- 1月31日(金) 第2回同窓会運営委員会
- 2月28日(木) 同窓会入会式
- 3月 1日(金) 卒業式
- 3月 末 日(日) 関東支部総会

令和6年度 役員名簿

	役 職	氏 名	卒 回
1	顧問	工 藤 眞 巨	高 7
2	顧問	村 松 輝 夫	高14
3	顧問	松 田 隆 宏	学校長
4	会 長	佐々木 順 一	高22
5	副 会 長	川 口 政 志	高13
6	副 会 長	滝 浦 重 美	高18
7	副 会 長	戸 塚 勤	高19
8	副 会 長	外 川 直 美	副校長
9	副 会 長	川 村 信	事務長
10	監 査 委 員	中谷地 紘 一	高15
11	監 査 委 員	池 田 毅	高17
12	監 査 委 員	柏 原 信 孝	高24

支 部 長

	役 職	氏 名	卒 回
13	日 詰 支 部 長	堀 内 憲 一	高20
14	古 館 支 部 長	宮 吉 太 郎	高15
15	赤 石 支 部 長	高 橋 吉 見	高20
16	志 和 支 部 長	鷹 觜 汎 使	高12
17	水 分 支 部 長	藤 原 修 一	高22
18	彦 部 支 部 長	森 田 正 毅	高12
19	佐比内支部長	佐々木 銀 一	高26
20	赤 沢 支 部 長	古 澤 志 弘	高17
21	長 岡 支 部 長	佐々木 廣 信	高20
22	紫波町職域支部長	松 村 寿 弘	高38
23	矢 巾 支 部 長	沼 田 克 見	高29
24	石鳥谷支部長	佐 藤 祐 一	高54
25	盛岡支部長		
26	花巻以南支部長	似 内 博	高20
27	関 東 支 部 長	吉 田 行 男	高13

事 務 局

	役 職	氏 名	職 員
1	事 務 局 長	佐々木 敬 之	職 員
2	事 務 局 員	佐 藤 貴 生	職 員
3	事 務 局 員	菅 原 寿 昭	職 員
4	事 務 局 員	森 田 絵 里	職 員
5	事 務 局 員	鎌 田 大 樹	職 員
6	事 務 局 員	川 村 紅 子	職 員
7	事 務 局 員	武 田 敏 之	職 員
8	事 務 局 員	千 葉 志 津	職 員
9	事 務 局 員	菊 池 智 子	職 員

6月 スポーツ大会



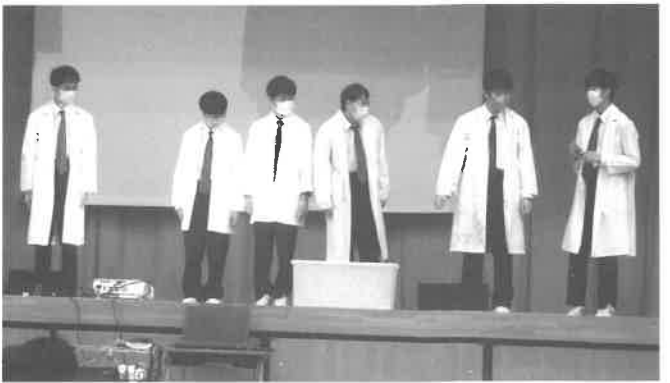
10月 紫鷺祭



4月 入学式



4月 対面式



パリ2024オリンピック出場 中野 4 位

【パリで運動部・及川慶
種目の男子ケイリンは
10月11日(日本時間)に、
パリ郊外のサンタンア
ン・イン・フランス・ペドロロ
ムで行われ、花巻市石巻谷
町出身の中野慎詞(前)は決
本競輪選手会、石巻谷中
業校総合高、早大入は決
で落車し、4位となった。
五輪初出場の中野は、準
々決勝を組4番、準決勝を
組3番で通過し、この種目

男子ケイリン

で日本勢16年ぶりの決勝進
出を果たした。
決勝は6人で6周して争
われ、中野は3周目まで先
頭でレースを進めた。一気
にペースが上がり、最後の
1周は得意のロングスパー
トで粘り、3位争いに加わっ
たが、最終コーナーにバラ
ンスを崩して落車。惜しく
もメダルを逃した。
今大会は6日(日本時間
6日)の男子4,000m団体
体連い抜き争いにも出場。
日本は10位で予選敗退し
た。



自転車の男子ケイリン決勝で、勝ち含中野慎詞(手前)＝11日、パリ郊外(共同)

岩手日報 令和6年8月12日付 ※この記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています。

事務局だより

- 役員・各支部長から同窓会報に寄稿いただきまして、感謝申し上げます。
- 同窓会総会は昨年度と同様に今年度も学校外の場所で実施しました。総会では学校紹介を行い、系列の内容など生徒達が何を学びどのような活動に取り組んでいるかを報告しました。さらに事務局から同窓会関東支部の太田泰様(第13回生)手作りの「渋沢栄一物語」を紹介させて頂きました。生徒にも紹介すると、新紙幣の1万円札に渋沢栄一の肖像が採用されたこともあり、より身近に感じられるようになったととても好評でした。懇親会も昨年に引き続き開催し、近況報告等とても盛り上がり、親交を深め合うことができました。
- 卒業生には、就職先、進学先住所等を教えていただけるよう呼びかけています。本人と保護者の同意を得てからとなります。
- 今後、各支部の活動が活発になっていくよう、事務局として支援していきたいと思います。
- 同窓会事務局としても、後輩に先輩方の職場情報、あるいは、こんな会社で求人を出している。などの情報をお待ちしております。

※noteも引き続き、フォローをお願いします。▶



同窓会支部だより



「関東支部の現状と今後の動向」

関東支部幹事長 畑 山 直 志

会員の皆さまにおかれましては御健勝で、各方面で御活躍のこととご推察申し上げます。

関東支部は平成2年3月11日、ロッテ会館で結成され、当時会員は約735名とのことでした。その後、段々数が減って、現在の会員は約250名程度となりました。結成当時総会には85名参加ですが、現在の総会参加者は約20～30名程です。今後のことについてはどうするのか、役員等で検討中です。

今までは会費も1,000円で現在、会員250名の3分の1程度の約80名位しか払っておりません。会員も年を取り会費を払う人は少なくなりました。本年の会費は2,000円としました。

支部設立から関東支部会報は、翌年の平成3年12月1日創刊号(第1号)の会報に始まり、本年は第34号となりました。ページ数も最初は8～12ページでしたが、今は、原稿が少なく4ページとなっていました。原稿を書いてくれる人も少なくなり大変です。

会員は当時は相当いましたが、段々年を取り減ってしまいました。会員も前は東京都内等に来る高校生が多くて良かったのですが、今は大学等へ進んだ後に地元へ戻る人も多くなりました。

今までは総会や宴会もしておりましたが、今年か来年で終了と致したいと考えています。これからのことはどうなるのか・・・皆さん今後のことについて、どうするのか何か良い考えがあったら教えてください。

以上、関東支部の現状と動向です。



「昔と今」

日詰支部長 堀 内 憲 一

私は、昭和43年の卒業です。入学時には、校舎が木造の二階建てでした。

そして、一学年のクラスがA組からF組の6クラスで、A組は農業科で男子クラス、B組は家政科で女子クラス、C組からF組は普通科で男女混合クラスでした。一クラスが55名位でした。

当時、町外から通学する生徒は、東北本線の古館駅か日詰駅のどちらかで下車して学校まで40分位かけて通学しておりました。また学校の周辺は、若干の住宅や店舗がある程度で水田や山林で閑散としていました。

しかし、平成10年に地元の人たちが日詰駅と古館駅の間に新駅の設置を請願しました。請願駅の設置費用が地元負担となることから、地元の人たちに寄付を募ることで、日詰駅と古館駅の間に紫波中央駅が開業することとなりました。

そのことにより、今まで通学に40分位かかっていたのが約55年後の現在は10分位になりました。

また、紫波中央駅が開業したことにより、駅付近は今まで水田であったところが、紫波中央駅前整備事業(オガールプラザ)により公共図書館、地域交流センター、民間産直センター、子育て応援センター、医療施設(小児科・耳鼻科・歯科)、飲食店等が建設され多くの町内外の方々に利用されております。

そして、大規模の宅地分譲が行われて700戸以上の建物が建築され、住宅街となり、昔の水田地帯の面影は全くありません。

このように、55年の歳月で学周辺の環境が一変しております。ただ、学校名等が変わりましたが、校歌や校庭(バックネット含む)の位置や農場の場所そして若干の松の木や桜の木が変わらずに残っています。

これは、私の自宅が学校のすぐそばで入学当時から一緒に過ごした思い出です。